

10. 地域との連携

10-1 環境学習

斐伊川水系では平成 16 年度～平成 17 年度に、財団法人ホシザキグリーン財団と出雲河川事務所の協力により、子どもを対象とした環境学習が行われている。

表 7-2 斐伊川水系環境学習実施状況

	対象	回	内容	参加人数(人)
H16	保育所	1	新しい指標生物による河川の水質調査 親子川あそび活動 木馬木川の「水の生き物観察会」	6
	幼稚園	2	湖や川の水質を調べよう 水辺のゴミ観察会 宍道湖船上学習会 シジミとり体験	21～40
	小学校	24	水生生物による河川の一斉調査 中海船上学習会 バードウォッチング	11～115
	中学校	4	ハゼ釣り体験 水辺の生きもの観察会 宍道湖生き物調べ 宍道湖バードウォッチング	5～130
	エコクラブ	2	松笠川の水質・生物調査 水質、ヨコエビ・貝、野鳥の学習 水質調査	10～20
	その他	10	水辺の生きもの観察会 川底に住んでいる生物観察 中海・宍道湖の水環境 斐伊川見学会 斐伊川水系ミニ水族館	8～500
H17	保育所	1	バードウォッチング ハゼ釣り体験	13
	幼稚園	1	河川の水質調査 湖や川の水質を調べよう	32
	小学校	27	宍道湖・中海のおいたちを知ろう 宍道湖船上学習会	10～96
	中学校	2	新しい指標生物による河川の水質調査 水生生物による河川の一斉調査	1～12
	エコクラブ	5	水辺のゴミ観察会 水辺の生きもの観察会	26～42
	その他	15	中海船上学習会 斐伊川・神戸川の特徴 斐伊川水系ミニ水族館	15～3000



斐伊川水系全域で実施した。なお、参加者の希望により神戸川でも実施した。



斐伊川水系全域で実施した。なお、参加者の希望により神戸川および広島市内でも実施した。

出典：出雲河川事務所所有 資料

10-2 地域と一体となった河川管理

斐伊川の高水敷は、堤外を縦断的に流れる水路によって分断され、人が近づきにくくほとんど利用されていないが、宍道湖や中海では、広大な水面を利用した舟運、ボードセイリング、レガッタ等の水面利用や、釣りや湖岸の散策、バードウォッチングなどの多様な利用がなされており、地域の人々に広く親しまれている。

特に中海の米子水鳥公園や宍道湖西岸では野鳥の観察施設があり、多くの人々に利用されているほか、環境学習の場として水辺プラザ等の整備を実施している。

また、斐伊川では毎年沿川地域住民による河川一斉清掃や、流域の小学生を主体として斐伊川放水路事業により切り開かれた丘陵地の法面等の緑化のために、在来植生による植樹活動が行なわれるなど、河川と流域の住民とのつながりや流域連携の促進及び支援、河川愛護思想の定着と啓発、住民参加による河川管理を推進している。